

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471300422		
法人名	社会福祉法人 グリーンセンター福祉会		
事業所名	グループホーム グリーントピア名張		
所在地	三重県名張市東田原2745番地		
自己評価作成日	平成 30年 7月 10日	評価結果市町提出日	平成30年11月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhou_detail_2017_022_kihon=true&JigvoNoCd=2471300422-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 30年 8月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれた環境の中で、庭や畑を見ながら外気浴やお茶を楽しまれている。ボランティアの慰問や保育園児との交流会の開催と地域市民センターよりの招待で、訪問させて頂くなど地域交流に努めている。ご家族の要望があれば、看取り介護も実施している。同敷地内には、特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス・ケアハウス・居宅介護支援事業所が併設されており、各事業所との連携が出来ている。施設内の地域交流ホールを活用した合同行事もあり、広い視野での介護支援が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周りは美しい樹木に囲まれ、いつも新鮮な空気が流れ落ち着いた環境の中にある。敷地内には併設する入所、通所の介護施設が多くあり、安心して生活出来る場でもある。事業所内にある交流ホールは家族、地域の人々、ボランティアとの交流の場として開放し、地域とのつながりを大事にしている。また、職員はのんびり・ゆっくり・一緒に出来る事を、その人らしい生活が送れるように・毎日楽しく過ごしてもらえるよう、笑顔を忘れず利用者と共に日々を過ごす支援をしている事業所である。中でもおむつ使用者が増えても布パンツ使用やパット減らしの取り組みは注目したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の”笑顔” ”あいさつ” 言葉づかい”を念頭に、ホールに掲示し、実践につながるように心がけている。	法人の理念を基に、事業所内で職員と一緒に考えた年間スローガンを行動指針としている。何事も相手の思いや意向を掴み取るには、声掛けが最小限必要であると考え、笑顔を忘れず、日頃から職員は常に自己研鑽して実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設見学や職場体験・実習生の受け入れ、市民センターへの行事参加・ボランティアの慰問などで地域住民や子供達との交流を図っている。	中学生の職場体験、保育園児との交流会をしたり、市民センターの七夕祭・クリスマス会に参加、文化祭に利用者の作品を出展している。事業所内の交流ホールを住民に開放し、ボランティア・民生委員の会合等に利用され、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生・ボランティアの受け入れなどを通じて、認知症への理解を得る機会としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議により、利用者家族・地域代表者・名張市の出席にて、客観的な視点で意見を頂き情報交換の場としている。職員間で議事録を回覧してサービスの向上につなげている。	年6回、偶数月第1(木)14時から特別養護老人ホームと合同で開催している、市担当課・地域包括・民生委員・家族が参加し、事業所の現状・行事・入居者状況報告をしたり、その時点での制度改正・防犯体制等の事例を議題を取り上げ意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で事業所の報告をしている。必要に応じて助言を頂き、介護相談員の訪問がある時は協力関係を築いている。	介護保険手続き等に訪れている。制度問題等は主に法人事務局が取り組んでいる。介護相談員との情報交換、運営推進会議で市担当者、包括支援センターとの日頃の協力関係を築く様に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束の対象者はいない。毎月身体拘束推進委員会に担当者が、出席している。	4月から身体拘束廃止の指針を作成し、身体拘束廃止推進委員会と身体拘束適正化委員会を交互に開催している。また2ヶ月毎にヒヤリハット報告書や事故報告書を検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間計画で高齢者虐待防止研修を実施し、意識の向上に努めている。毎月の委員会で情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、対象者はいない。 研修などに参加して学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時と解約時には、文章と共に十分な説明を行い要望や意見・疑問点がないかを聞き、理解・納得して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、利用者家族が地域や行政の方などと意見交換ができる場を設けている。面会時にも要望を着ている。また、利用者との会話の中で意見や要望を聞き、業務に役立っている。	家族の面会時には意見や要望が言いやすい場作りをしており、居室で会話したり、落ち着いた和室でお茶を飲みながら雑談したり、話し合う機会を多くするよう声掛けしている。運営推進会議の時にも意見を出せるよう促している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の引き継ぎやミーティングや職員会議などを通して職員の意見を聞き、処遇改善などよりよい施設の在り方・運営について話し合っている。	年度初め・年末の年2回、職員の個別面談をして自己目標設定表を提出してもらったり、朝夕の申し送り、ミーティング時、日常のケア中等に意見・意向を出してもらおう。出された意見・要望等は反映させるよう配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、給料に反映させている。また、安全衛生委員会を設置し就業環境の整備をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は、月1回施設外研修も推進している。研修内容を報告する機会を設けサービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協議会において、情報交換や交流会を通じて、自らのケアの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や入所申請時には、話し合いの場を設け、要望を聞き、良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学をして頂き、契約時に話し合いを持ち信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望や意見をお聞きし、複合型施設のメリットを活かし、優先すべき課題やサービスの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昼夜生活を共にしているので家族同様の関係作りが出来ている。一人一人が役割を持ち、生き甲斐を持って生活が送れている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡時には、日々の様子をお伝えし、情報を共有し要望を聞いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出の支援が出来た。	知人が訪れたり、馴染みの喫茶店・食堂へ外出を兼ねて毎月出掛けるようにしている。手紙の支援や家族の協力でお墓参りにも出掛けており、思い思いの支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	くつろぎやすい・談笑しやすい環境作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者はなかったが、相談に応じる体制は整っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の引き継ぎやミーティング・連絡ノートの活用で情報を共有し、意向にそった支援が出来ている。	その都度声を出し相手と自分を確認するのをスローガンにしており、意識して日常会話や夜勤時等で声掛けし、思いや意向の把握に努めている。把握された思いや意向は介護記録に記入し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を本人・家族・相談員などより、情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の様子観察や引き継ぎやミーティングなどで、職員間の共有を図っている。また、看護師との連携を図り、一人1人にあった支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングでは担当者を決め、本人の状態を把握し、課題やケアについて話し合っている。	面会時に家族から要望・意向を聞き、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎にサービス担当者会議でケアプランの見直しを行なっている。利用者の身体状況に変化があればその都度、見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事・排泄・バイタルチェックなどを日誌や個人記録に記入している。職員間で情報共有し、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに沿った支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域交流ホールを活用した外部ボランティアの慰問の利用や、園芸・散髪ボランティアや地域の市民センターの行事の参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の主治医の診療を受け、健康管理を行っている。また、個々の状態に応じた専門医の受診の支援もしている。	契約時に家族同意を得て全員が協力医に受信しており、協力医は月1回定期訪問診療している。整形外科・眼科・精神科等は職員が同行したり、家族が同行している。受診結果は家族に報告している。また日常は看護師が健康管理、協力医との連携を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に報告・相談し、連携を図り日常の健康管理と医療的な処置を行っている。また、看護師と24時間体制を整え、緊急時に備えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者情報を直接病院に持参し、家族を交えて情報交換している。退院時には、退院前カンファレンスに家族と参加し連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人やご家族の希望を入所時に聞かせて頂いている。看取りの指針を定め、職員・主治医・看護師・協力医療機関と連携を取りながら、支援する事となっている。	契約時に家族に指針を口頭で説明している。その状態に陥ったら協力医の指示により、家族に方針を説明し、文書で取り交わし支援している。また終末期・看取りの支援方法を運営推進会議でも取り上げ意見交換している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止対策委員会を中心に事故の予防・対応を職員に周知している。急変時には、24時間体制で看護師と連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を日中想定と夜間想定で実施している。消防署と連携し助言を受けながら、訓練の充実を図っている。地域の非常時の避難所にもなっている。	法人合同で年2回(7月、3月)、消防署立ち合いにより通報・消火・避難訓練を役割を決め総合防災訓練を実施している。市危機管理室の防災についての講習会も受け、また市福祉避難所の協定もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の心を大切に、その方にあった声掛けを心がけている。また、年1回人権研修で学習している。	相手の気持を常に掴み取り、その言動・行動を否定せず、利用者に心地良い言葉づかいで声掛けする等、同じ目線で接する取り組みをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思い・希望を傾聴し、意思疎通難しい場合でも、声掛けで働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・散歩・外に出たい・就寝など、一人一人の思いを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの馴染みのある衣類・小物などを持参して頂き、季節に合ったおしゃれが出来る。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事の盛り付けや食器洗いやテーブル拭き等状態に応じて、できる事をして頂いている。	委託業者から調理された食事が配達される。業者と毎月給食会議を開き、メニュー・気づいた事等を検討し美味しい食事提供に心掛けている。誕生月には職員が作るパースディケーキ、毎月の外食も楽しみになっている。利用者は体調に応じて盛り付け等を手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記録している。個々の身体状況に応じて、摂取しやすいように形態をかえ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きやマウスウォッシュを使用したうがい・口腔ケアスポンジ・口腔ウェットティーパーの使用など、本人の状態に合った方法で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、行動・仕草の様子を観察し、誘導解除のタイミングを考慮して支援している。	排泄チェック表でパターンを掴み、その日の体調や行動・表情・仕草から尿意を察知し、トイレに誘導・支援している。パット使用量の減少、布パンツに自立出来た利用者もいる。今後は排泄ケアの研修会を開催して、より一層の自立に向けた支援を行う予定である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療との連携で排便コントロールをし、毎日乳製品の摂取や外気浴・体操で体を動かす事が出来ている。また、便秘時で全介助の方にもトイレ排泄の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人のペースや体調を考慮し、看護師と連携をとりながら入浴の支援をしている。	基本的に週2回(火・金)、午前中に入浴するよう順を決めている。大きな檜作りの浴槽にのんびりと入浴を楽しんでいる。	職員体制の問題もあり、課題はあるが多くの人が入浴は楽しみである。重度化で浴槽に入れない利用者を含めて、入浴回数・方法を職員と検討し、工夫される事を期待する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各個室のベッドやフロアのソファの配置で、好みの場所で休息できる環境にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の処方箋をファイルに綴じている。薬の内容については、十分理解できるような環境を作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活・日常会話の中から、楽しみを見出し気分転換を図れるような生活の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事への参加をし、毎日の外気浴を行っている。外食やお茶をしに出かける支援をしている。	散歩できる時間を見計らい毎日、庭に出たり、駐車場を一周して草花を摘んだりして外気浴をしている。時にはドライブを兼ねて桜見・紅葉へと、また毎月、スーパーでの買い物・喫茶店・食堂へ出掛け、農園では季節の野菜の収穫を行っている。地域の行事等にも参加している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小口現金をお預かりしている。出かけたときに小口を渡すが、無理と言われる。支払の困難な方はほぼ全員。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたから出したいと希望のある方は、一緒にポストに投函しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	緑に囲まれた環境にあり、室内は明るく外の景色を見る事が出来る。随時季節感を取り入れる工夫をしている。	共有空間全てが掃除が行き届き、整理整頓されている。居間兼食堂は大変広く開放感があり、利用者は昼間みなが集まってくる。食堂のテーブルに生花、居間の壁には利用者が作った折り紙の花が飾られ、季節を感じる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや椅子をフロアーの色々な場所に置いてあり、気の合った方たちがくつろげる配慮をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を置いたり、写真や好みの置物を飾られている。安全面も配慮した心地良い空間づくりに努めている。	ベッド・箆笥・整理箱・家具調の椅子1台・洗面所・トイレが設備され、利用者は適宜家族の写真・家具等を持ち込み、各居室ともすっきりとした明るい空間が保たれ、それぞれ思い思いの居心地良さを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で移動しやすく、安全に生活できる場となっている。自立した生活ができるように名札や目印を付けている。		